

VCS 上の CPL スクリプトで ISDN オーバーフロー ルートを設定する

目次

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[背景説明](#)

[設定](#)

[CPL スクリプトについて](#)

[ダウンスピード帯域幅の設定](#)

[確認](#)

[トラブルシューティング](#)

概要

このドキュメントでは、サイト間の IP 帯域幅容量が限られている場合、または IP ネットワークの障害を防止する目的で、Cisco Video Communications Server (VCS) にオーバーフロー ルートを設定する方法について説明します。ISDN ゲートウェイを介したオーバーフロー ルートは、新しいコールを IP ネットワーク接続で発信できない場合に使用されます。

前提条件

要件

Cisco VCS について十分に理解しておくことをお勧めします。

使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、Cisco VCS に基づくものです。

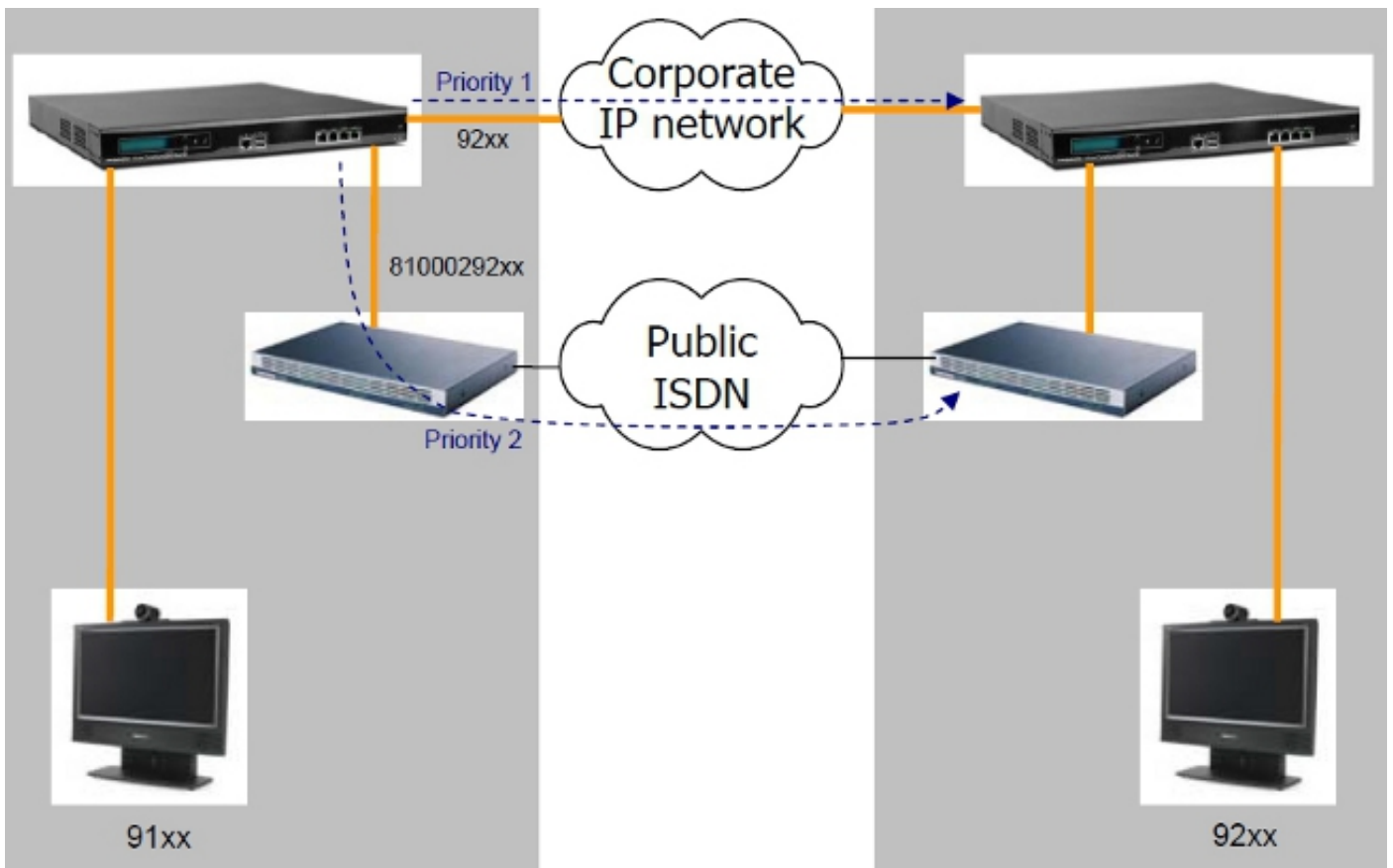
このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されたものです。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、クリアな (デフォルト) 設定で作業を開始しています。ネットワークが稼働中の場合は、コマンドが及ぼす潜在的な影響を十分に理解しておく必要があります。

背景説明

このドキュメントでは、Call Processing Language (CPL) スクリプトを使用して、コール ルートを次のように優先順位付けする方法を説明します。

- コールに十分な IP 帯域幅がある場合、Cisco VCS はそのコールを IP を介してルーティングします。
- コールに十分な IP 帯域幅がない場合、Cisco VCS はそのコールを ISDN ゲートウェイを介してルーティングします。

次の図に、上述の動作に従った Cisco VCS によるルートの判断を示します。



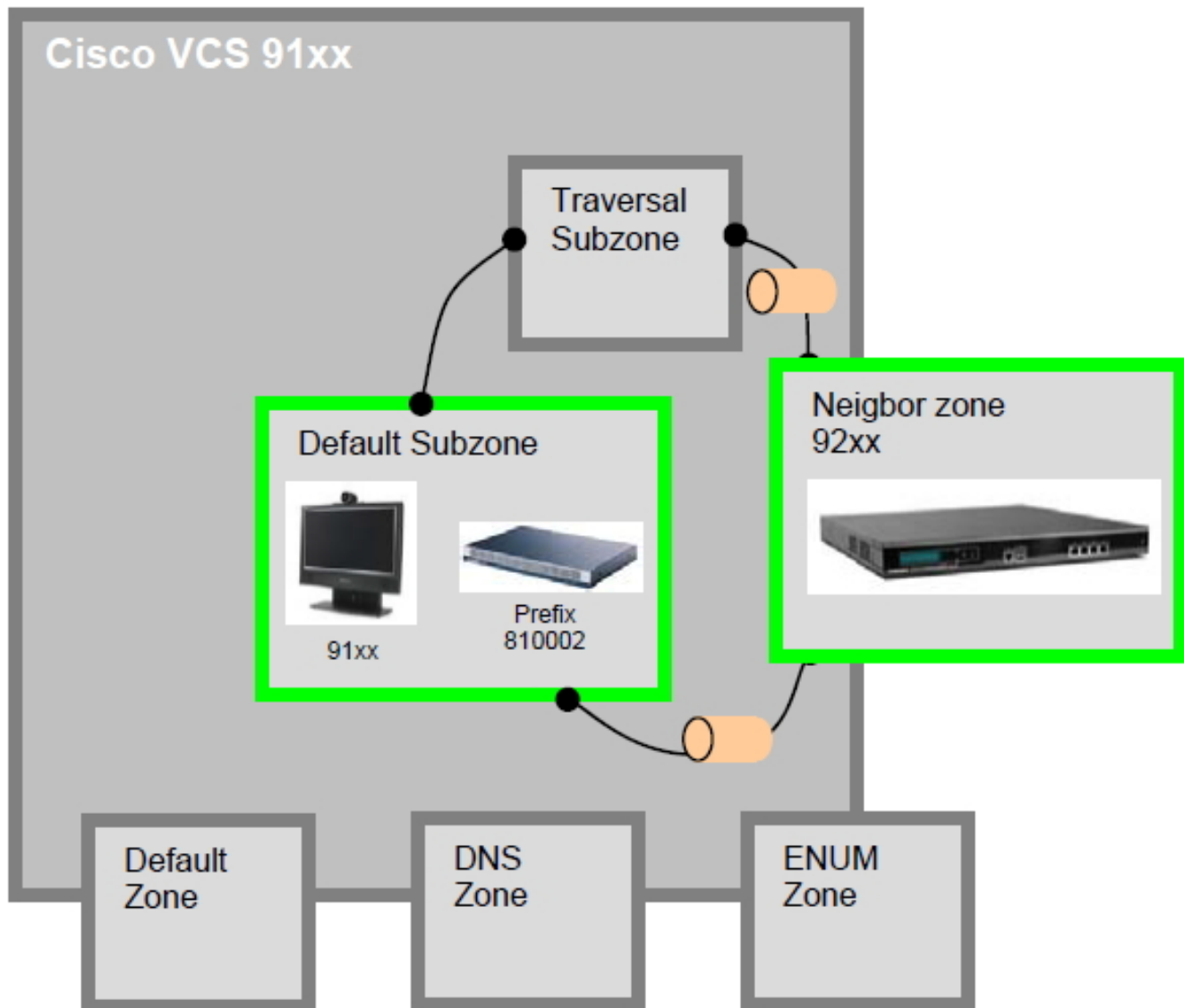
このドキュメントで説明する例は、次の前提に基づきます。

- エンドポイント 91xx が登録された 1 台の Cisco VCS があります (VCS 91xx)。
- エンドポイント 92xx が登録された別の Cisco VCS があります (VCS 92xx)。
- エンドポイント 92xx に ISDN ゲートウェイを介してアクセスするには、VCS 91xx が 92xx の番号の先頭に 810002 を追加する必要があります。

設定

このシナリオでは、VCS 91xx に VCS 92xx と一致するネイバーゾーンを設定し、VCS 91xx が IP ネットワークを介してコールを VCS 92xx にルーティングするようにします。このシナリオでは、次のプロセスが行われます。

1. ISDN ゲートウェイが、プレフィクス **810002** の登録により、VCS 91xx ゲートウェイに登録されます。



2. VCS 91xx から VCS 92xx への IP リンクの合計帯域幅容量を指定するパイプが定義されます。このパイプは、ネイバーゾーン 92xx に対してコールを発信できるすべてのリンクに適用されます。ネイバーゾーン 92xx に対し、合計帯域幅容量を超えるコールが発信されると、それらのコールは失敗します。さらに、ネイバーゾーン 92xx に対してコールが発信されたときに IP リンクがダウンしている場合も、コールは失敗します。
3. Cisco VCS に適用される CPL スクリプトは、ネイバーゾーン 92xx に対するコールが失敗した場合、プレフィックス **810002** を 92xx に追加してから、コールを再発信します。
4. ゲートウェイは、プレフィックス **810002** が追加されたコールを受信すると、自身のダイヤルプラン設定に基づいてコールを転送します。

帯域幅容量がある場合は IP を介してコールをルーティングし、IP リンクを介してルーティングできないコールはゲートウェイを介してルーティングする CPL スクリプトは、次のようになります。:

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" ?>
<cpl xmlns="urn:ietf:params:xml:ns:cpl"
xmlns:taa="http://www.tandberg.net/cpl-extensions"
```

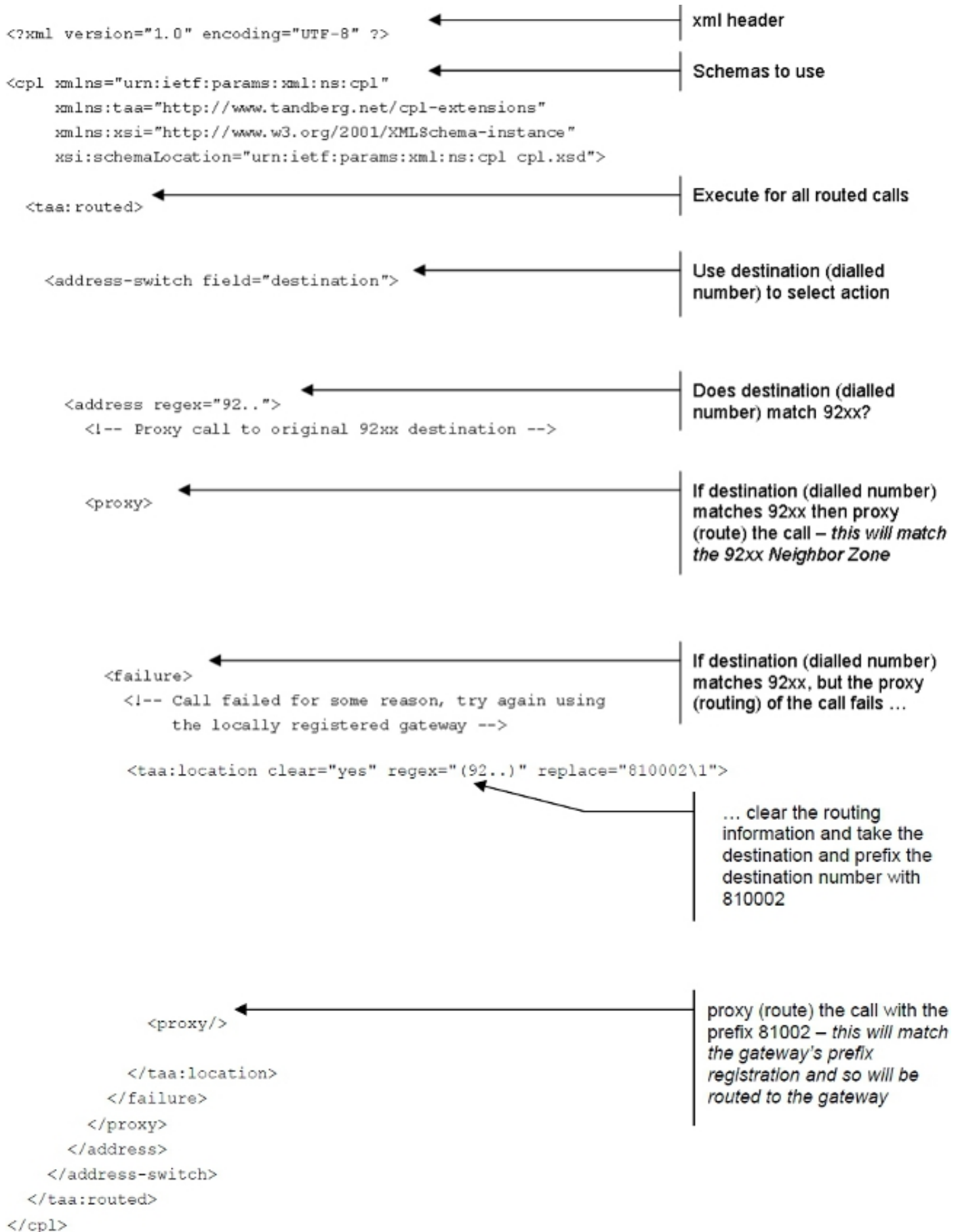
```
xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
xsi:schemaLocation="urn:ietf:params:xml:ns:cpl cpl.xsd">
<taa:routed>
<address-switch field="destination">
<address regex="92..">
<!-- Proxy call to original 92xx destination -->
<proxy>
<failure>
<!-- Call failed for some reason, try again using
the locally registered gateway -->
<taa:location clear="yes" regex="(92..)" replace="810002\1">
<proxy/>
</taa:location>
</failure>
</proxy>
</address>
</address-switch>
</taa:routed>
</cpl>
```

この CPL ファイルは、Web インターフェイスを介してロードする必要があります。それには、次の手順に従ってロードします。

1. [VCS configuration] > [Call policy] > [Configuration] に移動します。
2. [Policy Files] セクションで、この CPL ファイルを参照します。
3. [Upload File] をクリックします。

CPL スクリプトについて

以下に、CPL スクリプトについて詳しく説明します。



ヒント：CPL スクリプトの使用方法について詳しくは、ご使用のバージョンに該当する『[Cisco VCS Administrator Guide](#)』を参照し、「付録」セクションでCPL リファレンスを見つけてください。

ダウンスピード帯域幅の設定

たとえば IP リンクで使用できる帯域幅が 128 kbps であるときに、384 kbps の帯域幅を必要とする新しいコールが発信されたとします。この場合、コールの速度を 128 kbps に下げて IP リンクを介してルーティングするか、ゲートウェイにオーバーフローさせるかどうかを決定するように、Cisco VCS の帯域幅設定を調整できます。

帯域幅設定にアクセスするには、Web ブラウザ インターフェイスを使用して、[VCS configuration] > [Bandwidth] > Configuration] に移動します。

[Downspeed total mode] が [On] に設定されている場合、上述のシナリオでのコールは速度を下げられて IP リンクを介して発信されます。[Downspeed total mode] が [Off] に設定されている場合は、IP リンクへのコールが失敗し、ダイヤルされた番号にプレフィックスが追加されてから、ISDN ゲートウェイ経由でコールが転送されます。

ヒント： Cisco VCS の設定について詳しくは、ご使用のバージョンに該当する『[Cisco VCS Administrator Guide](#)』を参照してください。

確認

現在、この設定に使用できる確認手順はありません。

トラブルシューティング

現在のところ、この設定に関する特定のトラブルシューティング情報はありません。